

心身共にたくましく、自ら学ぶ、心豊かな子どもの育成



茅小だより 2月号

令和4年1月31日（月）

茅ヶ崎市立茅ヶ崎小学校
校長 吉野 利彦

こういう時だからこそ 「心の温かさ」を大切に

厳しい寒さが続く中でも、梅のつぼみがふくらみ始め、春の訪れを待ちわびる頃となりました。保護者や地域の皆様方におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、今月号は、数年前、たまたま聞いていたラジオのお話を紹介させていただきます。新聞配達のお仕事をされている方が番組に送ったお手紙の内容が紹介されていました。その方が、冬の寒い日に、いつものように朝刊を配達していたとき、あるお宅のポストに新聞を入れようとしたところ、ポストの近くに1本の温かい缶コーヒーとメモ用紙が置かれていました。そのメモ用紙には、メッセージが書かれていました。「新聞屋さん、どんなに寒くても、いつも朝早くから新聞を届けてくださり、ありがとうございます。もしよかったらこれを飲んで少しでも体を温めてください。」新聞配達の方は、そのメッセージを読んで温かい缶コーヒーを口にすると自然と涙があふれてきたそうです。

手袋をしていても指先がかじかんでしまうようなとても寒い朝で、ほとんどの人がまだぐっすりと眠っている午前3時半頃のできごとでした。1本の缶コーヒーが、新聞配達の方の冷え切った体を温めてくれました。体とともに、『心』まで温まったことは言うまでもありません。「自分のことをこんなに気にかけてくれていた人がいるんだ。」と、メッセージに込められた真心の温かさをしみじみと感じ、あふれる涙が止まらなかったそうです。

本校でも、1年生が、生活科の授業で、『家族ほかほか大作戦』を行いました。「一人でパンをつくってあげたら、ママがとってもおいしいって言ってくれました。」「パパのかばんからお弁当箱と水筒を出してあげたら、ありがとう、嬉しいなって言ってくれました。」など、思わず心がほっこりする「作戦」の報告が数多くありました。

新型コロナウイルスの変異株オミクロン株による感染が急拡大し、教育活動も再び制限が強化されていますが、こういう時だからこそ、心のやさしさや温かさを大切にしていきたいと考えております。